

国語科学習指導案

単元名（題材名）「自己の文章を客観視し、推敲しよう」（小論文の推敲）

令和6年10月 第1学年 指導者 石井 健悟

I 単元の構想

1 単元観

これまで科目「現代の国語」において、生徒が要約文や意見文を作成する機会を設けてきた。しかし、生徒によって進度や精度に大きく差が生じ、指導することに課題を感じていた。内容の検討方法や文章構成の仕方が分からず、書き出しの段階で手が止まってしまう生徒も散見された。一方で、文章を仕上げることができた生徒も、どのように推敲をすればよいのかが分からず、書きっぱなしになってしまっている場合が大半であった。そこで本単元においては自己評価、他者評価、対話型生成AIを活用した評価を活用し、多角的に自己の文章を把握させたい。また、対話型生成AIを活用することで、内容や構成の検討、書いた後の推敲に生かしたい。

2 研究との関わり

平成30年度告示の学習指導要領において、現代の国語は「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」領域が、他の領域よりも多くの単位時間が目安として示されていることからも、重要視されていることが分かる。また、言語活動例として、「意見や考えを論述する活動」、「案内文や通知文などを書いていたりする活動」などが挙げられているが、その活動を充実させることで、「書くこと」における確かな学力が身に付くと考える。

研究協力校の生徒の多くは、与えられた条件や指定字数に従って、文章を仕上げることはできる。しかし、書かれた文章を生徒同士で添削させると、誤字脱字や、文のねじれの確認などにとどまるが多く、内容や構成にまで目を向けることができる生徒はほとんどいない。また自分自身で推敲する場合においても、推敲の視点や粘り強さが不足しており、より質の高い文章を作成することが難しくなっている。

そこで、本研究では「自己の文章を客観視し、推敲できる生徒」の育成を目指す。従来は生徒自身による自己分析や生徒による他者評価に基づいて文章を推敲することが一般的であった。しかし、この方法では誤字や脱字の確認、文章のねじれの指摘など表面的な指摘にとどまってしまい、内容や構成に関わる推敲につなげることが難しい場合が多い。また、評価や分析をする生徒の学力レベルや取り組み具合によって、適当な評価やアドバイスを得られないことも考えられる。そのため、文章の推敲における「対話型生成AI」の有効な活用法を研究したいと考えた。近年、教育現場における生成AIの活用について注目が高まっている。高校生段階の生徒にとって、生成AIは比較的身近な存在である。たしかに、生成AIは使い方を誤れば国語力や思考力の低下にもつながりかねない危険性をはらんでいる。しかし、リスクを恐れて使用することを躊躇ってしまっては、生徒にとって非常に有効な手立てを一つ失ってしまうことになる。そのため、令和5年7月に文部科学省初等中等教育局から発表された「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に十分留意しながら、有効な活用法を摸索していく。本単元においては、生成AIと対話することで、より直接的に自身の文章の向上を図る技能を身に付けさせたい。今後は小論文の推敲だけでなく、単元に応じて要約文やスピーチ原稿の推敲など、汎用性のある成果を目指していく。

3 単元の目標及び生徒の実態

目標			生徒の実態
知識及び技能	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。(1) オ		<ul style="list-style-type: none"> 自らの書いた文の接続の仕方や文章の構成を客観視して推敲できる生徒は少ない。
思考力、判断力、表現力等	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。(1) ピエ		<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場や考えを明確に表現することは、ある程度できる。 自己の文章の特長や課題を客観的に分析することが苦手な生徒が少なくない。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		<ul style="list-style-type: none"> 一つの活動に対して、繰り返し粘り強く取り組もうとする姿勢はあまり強くないと考えられる。

4 評価規準

知識・技能	○文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。
思考・判断・表現	○「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○積極的に自己の文章を捉え直そうと、学習課題に沿って小論文を推敲しようとされている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第4時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ■小論文について理解を深め、生徒の関心の高いテーマに基づいて、本時のテーマを設定させる。 □説明用のスライドを見て小論文とはどのようなものか理解する。（★） □大学入試や小論文模試で実際に出題された問題（テーマ）をインターネットで調べて共有する。（★） □調べたテーマを参考に、今回的小論文のテーマを設定する。（★） <p>[単元の学習課題] 生成AIを活用して小論文を推敲し、自己の文章を客観視、自己調整する力を身に付けよう。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ◆文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 <観察・Googleスプレッドシート（知）>
追究する	2	<ul style="list-style-type: none"> ■小論文（600字）の構想メモを完成させる。 □小論文の構想メモをスプレッドシートに入力する。 □インターネットや生成AIを活用し、構想メモの作成を進める。 <p>[本時のめあて] 評価規準を参照しながら小論文の構成メモを完成しよう。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ◆文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方を意識して小論文の構成メモを作成している。 <観察・Googleスプレッドシート（知）>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ■小論文（600字）を完成させる。 □小論文の構想メモを基に、小論文を完成させ、自己評価を行う。 <p>[本時のめあて] 構想メモを参照しながら小論文を完成しよう。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ◆文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方を意識して小論文を作成している。 <観察・Googleスプレッドシート（知）>

	4 (本時)	<p>■他者評価や生成AIを活用して小論文を推敲させる。</p> <p>□小論文を他者に評価してもらう。 (★)</p> <p>□生成AIに小論文を分析させる。 (★)</p> <p>□他者や生成AIの分析やアドバイスを参考にして、小論文の推敲を行う。 (★)</p> <p>□推敲後的小論文について自己評価、他者評価、生成AIによる分析を再び行う。 (★)</p>	●	○	<p>◆他者や生成AIの分析やアドバイスを参考にしながら、文章全体を整えたり、自分の文章の課題を捉え直したりしている。<観察・Googleスプレッドシート(思)></p> <p>◆他者評価や生成AIの分析やアドバイスを参考にしながら、小論文を推敲しようとしている。<観察・Googleスプレッドシート(態)></p>
まとめる	5	<p>■本単元の学習の振り返りをさせる。</p> <p>□生成AIを活用した際のプロンプト(指示)を共有する。 (★)</p> <p>□他者による評価と生成AIによる分析やアドバイスの違いを実感する。 (★)</p>	●	●	<p>◆他者のプロンプトを知ることで、今後の推敲に生かそうとしている。<観察・Googleスプレッドシート(態)></p> <p>◆他者による評価と生成AIの分析やアドバイスの違いについて理解しようとしている。<観察・Googleスプレッドシート(態)></p>

II 第4時の学習

1 ねらい 他者評価や生成 AI を活用して小論文を推敲させ、自己の文章を客観視、自己調整する力を身に付けられるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応【S】 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 導入【本日の流れと目標の理解】(5分) 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>S:今日は前回作成した小論文について、生成AIを活用して推敲を行うようだ。</p> <p><めあて> 他者評価や生成AIを活用して小論文を推敲しよう。</p>	<p>○本時の活動の目的が、「他者評価と生成AIの活用による小論文の推敲によって、文章の客観視や自己調整力の育成」であることをスライドを用いて生徒に周知させる。</p>

<p>2 展開①【他者の小論文の評価】（10分）</p> <p>他者の小論文を読み（5分）、評価を行い、口頭で簡単なフィードバックをする。（1人2分程度）（★）</p> <p>必要に応じて、フィードバックの内容をメモする。（★）</p> <p>S：評価規準に基づいて適切に評価しよう。</p> <p>S：自分が気になった点について、相手に伝えてみよう。</p>	<p>◎評価規準に基づく評価だけでなく、アドバイスや感想などを積極的に伝えるように促す。</p>
<p>3 展開②【自己の小論文の推敲】（15分）</p> <p>生成AIに指定されたプロンプトを入力し、分析やアドバイスを得る。（★）</p> <p>他者や生成AIの評価を参照しながら、生成AIを活用し推敲を行い、再度自己評価を行う。（★）</p> <p>S：できるだけ具体的かつ詳細にプロンプトを入力しないと、自分の求める回答が得られないで注意しよう。</p> <p>S：生成AIの回答を全て鵜呑みにするのではなく、適切だと感じたものを取捨選択する必要がありそうだ。</p> <p>S：適切に推敲できているか、何度も推敲前後を読み比べてみよう。</p>	<p>◎生成AIの回答を必要に応じて参考にさせながら、自己の小論文の推敲を促す。</p> <p>○様々なプロンプトを入力し、生成AIから多様な回答を得られるようにする。</p> <p>○生成AIの活用により、適切に推敲できたと思った箇所を朱書きさせる。</p> <p>○自分が入力したプロンプトの中で、最も小論文の推敲に役立ったと感じるものをメモとして記録させる。</p> <p>◆評価項目 他者や生成AIの分析やアドバイスを参考にしながら、文章全体を整えたり、自らの文章の課題を捉え直したりしている。<観察・Googleスプレッドシート（思）> 他者評価や生成AIの分析やアドバイスを参考にしながら、小論文を推敲しようとしている<観察・Googleスプレッドシート（態）></p>
<p>4 展開③【推敲後的小論文に対する他者評価】（15分）</p> <p>推敲後的小論文を読み（10分）、再度評価を行い、口頭で簡単なフィードバックをする。（1人2分程度）（★）</p> <p>S：推敲前と比べて分かりやすくなっているな。</p> <p>S：よくなったと思った点について、自分の言葉で相手に説明してみよう。</p>	<p>◎評価規準に基づく評価だけでなく、アドバイスや感想などを積極的に伝えるように促す。</p>
<p>5 まとめ【振り返りと共有】（10分）</p> <p>本時の振り返りと共有を行う。</p> <p>S：生成AIは、自宅で自主学習をする際にも有効に使えそうだな。</p> <p>S：推敲のためには、多角的に文章を捉える必要があることが分かった。</p>	<p>○振り返りを共有することで、推敲の難しさや大切さについて、実感させる。</p>